

高等学校日语教材

新编 日本文化概况



主 审◎陈岩

主 编◎崔香兰 贺静彬

副主编◎李东辉 黄桂峰 邢晓红

大连理工大学出版社

高等院校日语专业教材

新编 日本文化概况

主 审◎陈岩

主 编◎崔香兰 贺静彬

副主编◎李东辉 黄桂峰 邢晓红

大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

新编日本文化概况：日文 / 崔香兰, 贺静彬主编
— 大连：大连理工大学出版社, 2010. 9
ISBN 978-7-5611-5661-2

I ①新… II. ①崔… ②贺… III. ①日语—高等学校—教材②文化—概况—日本 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 140548 号

大连理工大学出版社出版
地址：大连市软件园路 80 号 邮政编码：116023
发行：0411-84708842 传真：0411-84701466 邮购：0411-84703636
E-mail: dutp@dutp. cn URL: <http://www.dutp.cn>
大连日升印刷厂 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸：185mm×260mm 印张：14.75 字数：336 千字
印数：1~4000
2010 年 9 月第 1 版 2010 年 9 月第 1 次印刷

责任编辑：张 凡 责任校对：春 晓
封面设计：孙宝福

ISBN 978-7-5611-5661-2

定 价：28.00 元

前 言

中国和日本是一衣带水的邻邦，有着近两千年悠久的文化交流历史。随着我国改革开放不断加快，中日间的政治、经济、科技、文化、水产等多领域的交流与合作日益增多。为推动中日合作和共同发展，促进中日之间多方面的交流合作顺畅进行，这就得需要一大批不仅熟知中日文化、而且具备扎实的日语语言基本功和跨文化交际能力的复合型、应用型外语人才。为培养这方面人才，全国日语专业的教学内涵也随之发生了相应的变化。

在日本，自从日本国语学泰斗水谷修先生于1988年在名古屋大学首创了日本语言文化专业以来，日本各国立大学纷纷效仿，形成了语言文化研究的巨大潮流。在中国日语教育界颇有影响力的南开大学的王健宜教授在十年前提倡中国今后的日语教育应该从“语言训练型”向“文化理解型”转变；李永夏教授也建议日语人才要与知识能力结构相结合。这些倡导又使日语语言和文化相结合的教学模式应运而生。这种新的教学模式不仅可以使学生加深对日本文化的认识和理解，提高学生们的日语表达能力和理解能力，而且在更多地培养具有全球意识且思维灵活的、优秀的具有跨国际文化交际能力的复合型外语人才方面也起到积极的推动作用。

近年，介绍和研究日本文化的书籍相继问世，如王勇先生的《日本文化》、韩立红博士的《日本文化概论》、王建民先生的《中日文化交流史》、杨伟先生的《日本文化论》等。这些书全面地介绍了日本文化的独特性，并非常深刻地挖掘了日本文化生成发展的内在规律，是了解文化的高级指导书。但是，目前日语专业教学可以使用的文化方面的日语教材，大多侧重于介绍日本的衣食住行等民俗风情，所涉及的范围较集中于生活习俗而已，整体地较全面地概观日本文化的版本就更少有。只有了解了日本文化，才能对日语的内涵理解透彻，把握准确，交流起来才能顺畅。因此，较全面地掌握和了解日本文化，也是日语专业学生需要掌握的知识。



笔者于2006年出版了《日本文化概况》，在近四年的教学当中，不断了解到学生对本课程的要求和希望，并听取了资深专家的宝贵意见和建议，在增添了许多新的资料、图像和数据后，重新编写了这本《新编日本文化概况》。

本书按照教育部高等院校日语教学大纲的指导原则，适用于大学2年级下半学期和3年级上半学期的学生及日语爱好者。全书突出了知识性和趣味性。在编写过程中主要考虑了以下几个特点：

1. 涵盖性广，连贯性强。本书包括四大单元，分别为地理气候·历史文字·动植物、衣食住行、文艺文学及政治·经济·社会。
2. 通俗易懂，活灵活现。在语言表达上力求浅显易懂，疑难词汇都加有注音，特别是通过使用图片，在感性上加强读者对日本文化的理解。
3. 结合日语专业八级考试，每课课后都设有练习题。以加强学生的归纳性和理解力。

本书的出版，得到了大连理工大学出版社的大力支持和鼎力相助，在此深表谢意。由于本人的水平有限，错误之处在所难免，恳请读者及专家学者赐予宝贵意见，以助于今后的不断改进和完善。

崔香兰

2010年5月

目 录

第一单元

第一課 日本の地理と気候	1
1-1 概観 /1	
1-2 日本の地形と山河 /2	
1-3 地震と火山 /4	
1-4 梅雨と台風 /6	
1-5 雪国 /7	
🔍 練習問題1/10	
🔍 課外読み物/11	
第二課 日本の歴史	13
2-1 概観 /13	
2-2 律令制と遣唐使 /13	
2-3 源氏と平家 /15	
2-4 武士、大名と将軍 /17	
2-5 戦国時代と幕府 /19	
2-6 明治維新 /20	
🔍 練習問題2/23	
🔍 課外読み物/24	
第三課 日本の宗教	26
3-1 概観 /26	
3-2 神道 /27	
3-3 仏教 /27	
3-4 キリスト教 /28	
🔍 練習問題3/30	
🔍 課外読み物/31	
第四課 日本の言葉と日本の象徴	33
4-1 概観 /33	
4-2 日本の言葉と文字 /34	
4-3 敬語、方言と性別用語 /34	
4-4 天皇制と皇居 /37	
4-5 菊、桜と富士山 /39	
🔍 練習問題4/42	
🔍 課外読み物/43	
第五課 日本の植物と動物	44
5-1 概観 /44	
5-2 松、竹、梅、紅葉と楠 /44	
5-3 栗、柿ときこのこ /47	
5-4 狐、狸、猿、熊、犬と猫 /49	
5-5 鯛、蛙、鶴と亀 /53	
🔍 練習問題5/56	
🔍 課外読み物/57	

第二單元

第六課 日本の衣食生活	59
6-1 概観 /59	6-2 十二単と着物 /60
6-3 浴衣と作務衣 /61	6-4 刺身、寿司、天婦羅とすき焼 /62
6-5 梅干、納豆、味噌と醤油 /64	6-6 丼物、鍋料理、焼き鳥とおでん /65
⑤ 練習問題6/69	
⑤ 課外読み物/71	
第七課 日本の住宅	75
7-1 概観 /75	7-2 日本家屋と床の間 /75
7-3 布団、座布団、正座とあぐら /76	7-4 炬燵、火鉢、囲炉裏、団扇と風鈴 /77
7-5 風呂敷、箆笥、暖簾と風呂 /78	7-6 畳、ふすまと障子 /79
⑤ 練習問題7/82	
⑤ 課外読み物/83	
第八課 日本の冠婚葬祭	85
8-1 概観 /85	8-2 お宮参り /86
8-3 成人式 /86	8-4 結婚式 /87
8-5 葬式 /88	8-6 仏壇と神棚 /89
⑤ 練習問題8/93	
⑤ 課外読み物/94	
第九課 日本の年中行事	96
9-1 概観 /96	9-2 春——節分、彼岸、雛祭り、お花見 /97
9-3 夏——お盆、七夕 /100	9-4 秋——紅葉狩り、十五夜 /103
9-5 冬——大晦日、正月 /104	
⑤ 練習問題9/108	
⑤ 課外読み物/108	
第十課 日本の祝祭日	110
10-1 概観 /110	
10-2 春——春分の日、緑の日、憲法記念日、子どもの日 /110	
10-3 夏——海の日 /112	
10-4 秋——敬老の日、秋分の日、体育の日、文化の日、勤労感謝の日 /113	
10-4 冬——天皇誕生日、元旦、成人の日、建国記念日 /115	
⑤ 練習問題10/118	
⑤ 課外読み物/119	

第三單元

第十一課 日本の芸能	121
11-1 概観 /121	
11-2 歌舞伎、能、人形浄瑠璃、狂言と日本舞踊 /122	
11-3 三味線、尺八、琴と琵琶 /124	
11-4 落語、講談と漫才 /125	
11-5 民謡、浪花節、童歌と演歌 /126	
🔍 練習問題11/129	
🔍 課外読み物/130	
第十二課 日本の芸術	131
12-1 概観 /131	12-2 日本画、水墨画と浮世絵 /132
12-3 陶磁器、漆器と日本の人形 /133	12-4 華道、茶道と書道 /134
12-5 日本庭園と盆栽 /136	
🔍 練習問題12/139	
🔍 課外読み物/140	
第十三課 日本の文学	142
13-1 概観 /142	13-2 短歌、俳句と川柳 /142
13-3 『竹取物語』と『源氏物語』 /144	13-4 『枕草子』と『徒然草』 /146
13-5 『浮雲』と『羅生門』 /147	
🔍 練習問題13/150	
🔍 課外読み物/151	
第十四課 日本のスポーツと余暇	153
14-1 概観 /153	14-2 相撲、柔道と剣道 /154
14-3 野球、サッカーとゴルフ /155	14-4 宝くじ、パチンコ、競馬と競輪 /156
14-5 麻雀、将棋と囲碁 /157	14-6 温泉旅行 /158
🔍 練習問題14/160	
🔍 課外読み物/161	

第四單元

第十五課 日本の政治と外交	163
15-1 概観 /163	
15-2 憲法、三権分立、象徴天皇制と天皇「人間宣言」 /164	
15-3 議院内閣制、国会、国制・政体と元首 /165	
15-4 選挙と政権交代 /167	
15-5 裁判所と最高裁判所 /168	
15-6 外交の歩み、自衛隊と日米安保体制 /169	
🔍 練習問題15/171	
🔍 課外読み物/172	

第十六課 日本経済	174
16-1 概観 /174	
16-2 経済・産業、農林水産業、工業と科学技術 /175	
16-3 日本的経営 /177	
16-4 バブル経済及び崩壊 /177	
16-5 リストラと定年制の崩壊 /178	
16-6 不良債権 /178	
❖ 練習問題16/180	
❖ 課外読み物/181	
第十七課 日本教育	183
17-1 概観 /183	
17-2 義務教育と日本の学校制度 /183	
17-3 学級崩壊、不登校と21世紀教育新生プラン /185	
17-4 大学全入時代、大学改革プラン、日本の大学と大学院事情 /187	
17-5 塾通いの子どもとカルチャーセンター /188	
17-6 留学生 /190	
❖ 練習問題17/192	
❖ 課外読み物/193	
第十八課 日本社会生活	195
18-1 概観 /195	
18-2 中元、歳暮とお返しのマナー /196	
18-3 年賀状、忘年会と暑中見舞い /197	
18-4 核家族、高齢化社会と少子化社会 /198	
18-5 格差社会、フリーター、ニート、団塊の世代とネットカフェ難民 /200	
18-6 婚活とF1層 /203	
18-7 若者文化、おたくと女子高生文化 /204	
❖ 練習問題18/207	
❖ 課外読み物/208	
付 録	210
一、練習問題答案 /210	
二、日本年中行事一覧表 /212	
三、日本歴史年表 /216	
四、日本三大名称一覧表 /219	
五、日本の国立大学一覧表 /222	
参考文献	224

第一単元

第一課 日本の地理と気候

【1-1】 概観

日本はアジア大陸の東側に位置し、日本海をへだて大陸とほぼ平行に連なる弧状列島こしはうれつとうからなっている。東と南西には太平洋があり、アジア大陸と日本の間には、オホーツク海と東中国海がある。

日本列島は、南北に3千キロに延びる細長い列島で、4つの大きな島と約4,000ぐらいの小さな島々からなっている。北はロシア本土の東隣に位置し、南はヤシが生い茂る熱帯ねつたいの島々で、ハワイとほぼ同緯度にある。

気候は地域的に多様であり、一年の季節の移り変わりは顕著である。列島を大きな背骨せぼねを形作るように走る山脈のおかげで、東側と西側で気候が大きく異なる。たとえば、冬、日本海からの湿しめった空気が日本海側に積雪せきせつ数メートルの豪雪ごうせつをもたらす一方、太平洋側では、乾燥した晴天がみられる、といった具合である。さらに、初夏には梅雨しよかと呼ばれる雨季うきがあり、秋と初冬には熱帯暴風雨の台風たいふうが来襲する。

日本の地勢上好ましくない点とえば、地震このと火山噴火かざんふんかがよく起こることである。昔は、地震と噴火、そして厳しい気候は神様のたたりだと信じられてきた。自然と調和して生きることが日本人の重要な精神の一つになっていることを理解するのは難しいことではない。

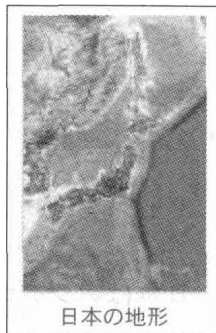
日本の位置の特徴として、次の特徴が挙げられる。(1)大陸に近いので、古くから大陸と往来していた。(2)温帯にあるので、四季の区別が著しく、生活に適しているが、南北の長さが3000キロもあるため、北と南とでは気候の違いが大きい。(3)ヨーロッパ・アメリカには遠いため、130年ほど前までは世界の進んだ文明から取り残されていた。(4)ユーラシア大陸と太平洋との境にあるため、季節風・台風・梅雨の影響を受けている。

【1-2】 日本の地形と山河

【日本の地形】

日本は北東から南西に長く延びた弧状の列島で形成されている。日本の総面積は37万2461平方キロメートル、中国の25分の1、イギリスの1.5倍と同じぐらいで、これは中国と比べれば小さいが、ヨーロッパでならば第四の大きな国であり、実際にはそんなに小さくはない。

日本の国土は本州・北海道・九州・四国の四つの大きな主島から成り立っている。北海道は本州の北にあり、九州は本州の南西にあって、四国は本州の南にある。その中で、本州の面積が一番大きく、約23万平方キロメートルで、全国面積の61%を占めている。ついで、北海道は22%、九州は12%、四国は5%をそれぞれ占めている。ほかに、これらの主島に付随して大小あわせて4,000ぐらいの島々が散在している。沖縄を主体とする南西諸島を加えれば、その長さは3,500キロになる。日本列島は、太平洋や日本海などの海に囲まれ、大陸とは浅い大陸棚で接している。太平洋側には、非常に深い日本海溝や伊豆小笠原海溝がある。日本には、いくつかの火山脈が走っているので、地形は変化に富み、川は短く急流で、山あいでは深い峡谷を形成し、海岸線は複雑に入りこんでいる。風光明媚なところが多く、温泉地も点在している。



日本の地形

日本では、四分之三を山地が占めていて、平野や盆地はあちこちに点在している。中央には日本アルプスが聳え、東側が南北に、西側は東西に山地が繋がっている。日本の河川が短くて急流で、土砂を運ぶことで扇状地や三角洲などが様々な地形が作られている。

また、農業に適しており、世界にみても人口が集まっているところである。日本の国土は世界で第60位であるのに、人口は第9位（1位中国、2位インド、3位アメリカ）、人口密度は1kmあたり約332人で、世界平均の約8倍にあたる（中国の2.6倍、アメリカの12.7倍、ロシアの36.8倍）。しかも、その大部分が国土面積のわずか24%の平野に住んでいる。そのうえ、大都市に住む人が多く、人口の44%が面積わずか6%の三大都市（東京・大阪・名古屋）に集中している。

【山河】

日本が含まれている温帯は、ヨーロッパやアメリカ、アジア地域に分布しており、降水量が多くて様々な植物も育っている。国土の3分の2は森林で、地域によって育つ種類も違う。それは気温などによる影響が大きいといえる。日本国土面積の61%は急



峻な山岳地帯で、森林に覆われている。一方、人が住める平野や山間の盆地をあわせた平地の面積は24%であるが、ここに人口の65%が集中している。そのため美しい山々と豊かな緑に恵まれている反面、居住可能面積当たりの人口密度は世界有数となっている。

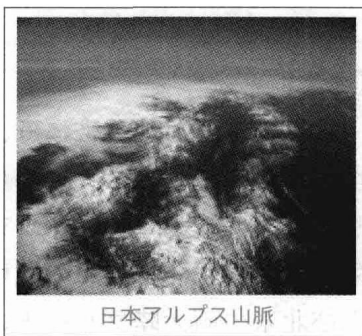
農業用地は14%、工業用地にいたっては、わずか0.4%にすぎない。

本州の中央部には、飛騨・木曾・赤石の三つの山脈があり、3000 m以上の山々がそびえている。それぞれ北・中央・南アルプスとも呼ばれ、総称して日本アルプスとか、日本の屋根とも言われている。これは1896年に、イギリスのウェストンによって名付けられたものである。

日本の平野をつくりあげた河川は諸外国に比べると短小で、その流域面積もまた僅少である。しかし、いかに流程が大であっても、中国の江の川や四国の四万十川のように山間のみを流れる先行性の河川は、ダムが作られない限りは人文の役には余り立たない。

また、このような山間盆地を流れる先行性の河川でも東日本の場合は雪解けの水などが残っていて、渇水することなく、たとえダムを作っても、その保水量に年間の変化はないが、西日本のそれは水位に変化をもたらし、ことに夏季には水面が低下する。つぎに流域面積にしても北海道の釧路川や十勝川のように、平野に泥炭層が多いところを流れるのでは河川のもつ利用価値は少ない。それはともかく、まず日本において最大の河川は信濃川の367キロメートルにはじまり、第二位は利根川の322キロメートル、第三位は石狩川(268キロメートル)、第四位は天塩川(256キロメートル)の順となるが、上流に名寄盆地をもつ天塩川は北の宗谷海峡に流れ、信濃川は上流に長野盆地を形成する。これに対して流域面積では、利根川が第一位で、16,480平方キロメートル、ついで石狩川(14,300平方メートル)、信濃川(12,050平方キロメートル)、の順となり、よく日本の三大河川と称している。

河川によって運び出された多量の土砂は、山地の周りを埋め立てて、モザイクのように小さく分かれた平野を作っている。高山岳のある中部地方では、急流のため河口部にまで粗い礫が運ばれてきている河川が多く見られる。多量の運搬土砂のためダムは急速に埋められ、寿命が短くなっている。平野部では土砂の堆積により、河の位置が頻繁に変わり、洪水の流れる方向もまた変化する。このような自然の特質のために、日本ではほとんどすべての気象災害および地震・火山災害が激しく起こっている。自然災害は日本列島の宿命である。



日本アルプス山脈



信濃川



【1-3】 地震と火山

【地震】

世界の主要な地震帯には、太平洋を取り巻く環太平洋地震帯と、インドネシアから枝分かれしてヒマラヤを通り地中海へ続くヒマラヤ・アルプス地震帯がある。日本列島は環太平洋地震帯の北西部に位置し、ユーラシアおよび北米の両大陸プレートの下に、太平洋およびフィリピン海の両海洋プレートが沈み込んでいるという、複雑な地下構造のところにあっている。沈み込む際の押し合いにより日本列島はほぼ東西方向に圧縮され、大量の歪が引き続き発生して地震が頻発する。地震プレート・テクトニクス理論によれば、日本列島付近では、太平洋プレートがあるそうである。そのため、世界でも有名な地震多発地帯となっている。全国範囲で毎日四回ほど地震が起こるといわれている。



日本は古来地震と火山、台風が多い災害の国で、今もなお活動を停止していない、活火山や休火山も少なくないのである。世の中の恐ろしいものの順位を、日本人はユーモアを交えて「地震、雷、火事、おやじ」と表現する。地震は恐ろしいものの第一に挙げられるほど被害が大きく、また、日本列島各地で頻繁に発生する。日本の都市部においては、木造建築物の多い密集市街地が広い範囲で存在し、都市域が地震に見舞われると、大火災の発生のおそれのあることが、日本の地震の特徴の一つとなっていた。

日本は古来地震と火山、台風が多い災害の国で、今もなお活動を停止していない、活火山や休火山も少なくないのである。世の中の恐ろしいものの順位を、日本人はユーモアを交えて「地震、雷、火事、おやじ」と表現する。地震は恐ろしいものの第一に挙げられるほど被害が大きく、また、日本列島各地で頻繁に発生する。日本の都市部においては、木造建築物の多い密集市街地が広い範囲で存在し、都市域が地震に見舞われると、大火災の発生のおそれのあることが、日本の地震の特徴の一つとなっていた。

1923年の関東大震災は被害規模および社会経済的インパクトの大きさからみて、世界の自然災害史上で最大規模の災害であったと判断される。家屋倒壊と火災により約9万人が死に、1995年1月神戸の大震災では死者、行方不明者6,427名を登録した。このような大災害を引き起こした主因は、地震の後に発生した大規模延焼火災である。東京市（旧15区）における住家全潰はおよそ1.2万棟であったのに対し焼失は棟数で約22万、世帯数では約28万で、火災による被害が大部分を占めた。1995年の兵庫県南部地震による神戸市における火災は焼損棟数7,379棟で、関東地震時の東京市と横浜市に次ぐ大火であった。日本の家屋のほぼすべては木造である。木材は軽くて粘りがあるので耐震性に優れているものの、一方燃えやすいという欠点がある。したがって、家屋が密集する市街地においてひとたび延焼火災に発展すると、大量の家屋焼失が生じる。倒壊しただけであればかなりの財産は残るが、火災になればこれは全く失われることになる。



1923年の関東大震災は被害規模および社会経済的インパクトの大きさからみて、世界の自然災害史上で最大規模の災害であったと判断される。家屋倒壊と火災により約9万人が死に、1995年1月神戸の大震災では死者、行方不明者6,427名を登録した。このような大災害を引き起こした主因は、地震の後に発生した大規模延焼火災である。東京市（旧15区）における住家全潰はおよそ1.2万棟であったのに対し焼失は棟数で約22万、世帯数では約28万で、火災による被害が大部分を占めた。1995年の兵庫県南部地震による神戸市における火災は焼損棟数7,379棟で、関東地震時の東京市と横浜市に次ぐ大火であった。日本の家屋のほぼすべては木造である。木材は軽くて粘りがあるので耐震性に優れているものの、一方燃えやすいという欠点がある。したがって、家屋が密集する市街地においてひとたび延焼火災に発展すると、大量の家屋焼失が生じる。倒壊しただけであればかなりの財産は残るが、火災になればこれは全く失われることになる。

今日の都市は、巨大化し、情報通信網、交通網と多量の車両、ガスや電気などのライフラインなど都市のネットワークが複雑から高密に発達している。さらに石油コンビナートなどの危険物施設や悪い地盤での住宅開発など、地震の被害を大きくする可能性を秘めているものも少なくない。地震の被害者を最小限に食い止めるために、日本では地震予知の研究が進み、また建造物にも世界最高水準の安全水準が設けられている。

【火山】

地震地帯にほぼ重なるようにして火山地帯が日本列島を走り、世界でも最も地震、火山活動が活発な地域を形成している。日本列島は沈み込みプレート境界にあるので、爆発的な噴火を行うマグマ化学組成の火山が多数分布する。活火山とは現在活動しているかあるいは将来噴火する可能性のある火山であるが、日本ではその判定基準を最近2000年間に活動している火山とし、総数で97の火山あるいは火山群が活火山として挙げられる。火山島は31あり、その半数は無人島である。

現在活発に活動し、また噴火の記録の多い火山は、危険な火山としてまず挙げられる。桜島は世界でも最も活動的な火山で、頻繁に噴煙を高く噴き上げている。噴火の記録が最も多いのは浅間山と阿蘇山である。阿蘇山の553年の噴火は日本で最古の噴火記録である。日本には160以上も火山があり、そのうち半数近くは噴火の記録を持つ火山で、世界でも火山国として知られている。多くの火山が帯のように連なっているのを火山帯といい、日本列島の成り立ちから、東日本火山帯と西日本火山帯に区分されている。1991年から続く長崎県の雲仙普賢岳の噴火はふもとの町を火砕流と土石流で襲い、全滅の危険に陥っている。富士山も歴史的に何度も大爆発を起こしていたが、やがてまた爆発するだろうと言われている。

ところで、自然は災害をもたらすとともに、日本はこのような自然の恩恵にも恵まれている。しかし、火山地帯の風景は美しく、国立・国定公園となっているところが多く、観光客も多い。また、火山帯と地震にともない、地下から湧き出る泉のうち、日本では水温が25度以上のものを温泉といい、火山地帯では地下の高温で温められた水が湧き出すので、温泉が日本全国にいたるところにある。日本は世界一の温泉大国と呼ばれ、世界で大変な人気を呼んでいる。温泉の中には規模を誇る「三大湯」として、それぞれ大分県の別府温泉、静岡県の熱海温泉、岐阜県の下呂温泉である。温泉は古くからさまざまな病気に効くことが知られ、各地に湯治場が形成されている。中には効能が高く湯治場として知られる「三大薬場」として、群馬県の草津温泉、兵庫県の有馬温泉、新潟県の松の山温



泉がある。昔から、男女貴賤きせんを問わずに「極楽、極楽」と言いながら、温泉に浸かる風景がよく見られる。戦後になると、高度成長期には宴会型温泉が盛んになった。今の時代、ストレスを抱える現代人にとって、温泉は精神的な疲労や病気にも効果的である。

【1-4】 梅雨と台風

【梅雨】

梅雨ばいう（ばいう、つゆ。霪雨ばいうとも）とは、北海道と小笠原諸島を除く日本、朝鮮半島南部、中国の華南や華中の沿海部、および台湾など、東アジアの広範囲においてみられる特有の気象現象で、5月から7月にかけて毎年めぐって来る雨の多い期間のことである。

梅雨の時季が始まることを梅雨入りにゅうばい（入梅）、梅雨が終わって夏になることを梅雨明け（出梅）といい、ほとんどの地域では気象当局が梅雨入りや梅雨明けの発表を行うのである。ただ、雨季が訪れる土地は世界中に多くあるが、梅雨はそれほど雨足の強くない雨が長期にわたって続く点に特徴がある。このため、霪かびや食中毒などに注意が必要な季節とされている。

梅雨の語源としては、この時期は梅の実が熟す頃であることからという説や、この時期は湿度が高く霪かびが生えやすいことから「霪雨ばいう」と呼ばれ、これが同じ音の「梅雨」に転じたという説がある。この時期は「毎」日のように雨が降るから「梅」という字が当てられたという説がある。

夏に向かって太平洋方面の気圧が高くなるが、一方シベリア方面の気圧がそれほど低くならないので、日本に沿って気圧の谷ができて、ここを低気圧がよく通り、梅雨前線ばいうぜんせんがよくできて、雲雨天の日が多くなる。梅雨型の気圧型の気圧配置になる時期を入梅といい、旧暦の入梅は六月十一日であるが、実際の気象の入梅は年によってちがひ、早い年は五月下旬、おそい年は六月半ばである。また、梅雨のあけるのは、だいたい七月十日ごろであるが、これも年によって十五日ぐらひ早くなったりする。夏には太平洋の高気圧の勢力が強くなるので、梅雨前線ほくじょうが北上して、梅雨があけると、暑さの厳しい本格的な夏となる。梅雨中にはオホーツク海方面に高気圧が発達して、ときにはこの高気圧が著しく発達して日本海の方へ張り出す。また東太平洋に高気圧が発達することもある。こういうときには、北東ないし北寄りの風が吹いて気温がさがる。梅雨末期に当たる六月下旬から七月上旬にかけてはよく集中豪雨が降る。梅雨明けが早い年には干ばつの傾向があり、逆に遅れると、北日本は凶冷きょうれいとなることが多い。

【台風】

日本において、八月は前半割合に、よい天気が多いであるが、後半になると天気が悪くなる。これは太平洋の熱帯性低気圧が発達して大きな勢力を持ち、日本を襲うように

なるからである。台風は夏から秋にかけて毎年多くの風水害を日本列島にもたらしている。

台風の勢力は「大きさ」と「強さ」という2つの表現で示されている。1934年の死者3,036人などの大きな被害をもたらした室戸台風は観測史上最強の台風であったが、このような非常に大きい台風では、日本の本土がすっぽりと覆われてしまうほどの大きさになる。

この台風は主被災地の京阪神地方には不意打ちの状態となり被害を大きくしたので、台風予報の向上を促す契機となっている。

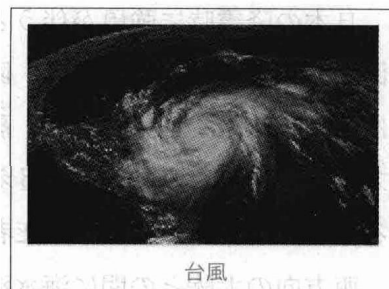
日本の風水害の80%は台風によるものである。風による被害としては建造物破壊、作物減収、塩風による送電線の故障などあり、豪雨による被害は建造物の浸水、流失、土滑り、山崩れ、土石流などがある。アメリカのハリケーンなどと比較して日本の台風被害の特色を挙げれば、急峻な山岳地帯のために起きる土滑り、山崩れなどが多いということであろう。毎年、このために何人もの死者が出たり、家屋が破壊され、交通が遮断されたりする。

1960年代以降全般的にみて、台風による被害はその勢力に比較し、より少なくなる傾向を示してきた。とくに、夜間上陸の台風による被害が大きく減少した。これには情報伝達手段や生活様式の変化なども関係している。台風はその発生・移動の経過が完全に捉えられている。見失うことはない。地震や噴火などに比べれば、ほぼ完全に予報されていることになるが、台風被害を防ぐにはさらに、洪水・山崩れ・高潮などの予測が必要である。

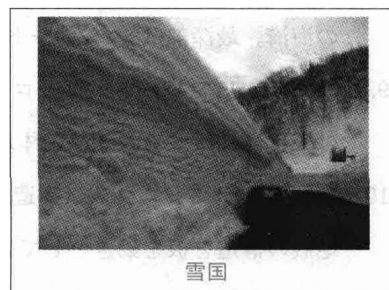
【1-5】 雪国

【雪国】

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」——これは、ノーベル賞作家、川端康成の名作『雪国』の冒頭部の有名な一節である。この表現は日本の地形をもよく表している。冬はシベリアから吹く冷たい季節風が、本州中央部を北東から南西へ連なる山脈にぶつかり、日本海側に大雪を降らせる。山脈の太平洋側にはあまり雪が降らない。そのため太平洋側から日本海へトンネルを抜けるといきなり深い雪の積もった雪国が劇的に出現するのである。このように雪国とは本州の日本海側一帯と東北地方及び北海道全域を指している。



台風



雪国

日本の降雪時に強風が伴うと、交通障害を中心とした風雪災害が生じる。また、建物倒壊、集落孤立、落雪被害、除排雪に伴う二次災害、樹木損傷^{じゅもくそんしょう}などをもたらし、融雪時は河川の流量を増大させて、融雪洪水^{ゆうせつ}を惹き起こしたりする。また、積雪の重量は1平方メートルあたり600kgを超える重さになる。この大量の重い屋根雪おろしの際における事故死は、雪に関係する死者の大半を占めている。

西方向の大陸との間に海水温の高い日本海が存在するという地理的条件のため、日本列島の日本海側では毎年の豪雪は宿命である。これによる障害をどこまで防除^{ぼうじよ}するかは、雪が多いという本来的な自然環境条件のなかで、どのような生活形態・社会活動を選択するかという問題に関わるだろう。

【注釈】

1. 背骨：背中の中央を頸から腰まで通っている骨。
2. 来襲する：不意に寄せてくること。
3. 大陸棚：大陸周辺に広がる傾斜のゆるい海底。深さは平均約200メートル。魚場となっており、また地下資源も豊富。
4. 急峻：傾斜が急な様子。
5. 信濃川：新潟県を貫流する川。上流の長野県では千曲川^{ちくまがわ}と呼ばれる。秩父山地^{ちちぶさんち}の甲武信岳^{こうたけのぶだけ}に発し、日本アルプスに発する犀川^{さいかわ}を合わせ、長野県を北東流し、越後平野を形成、新潟市で日本海に注ぐ。河港長岡^{かこうながおか}を発達させ、発電、農業、工業用水に利用される。
6. 利根川：関東地方を西北から南東流す川。三国山脈の丹後山に発源し、赤谷川^{あずまがわ}、吾妻川^{わたらせ}、渡良瀬川^{がわ}、鬼怒川など支流285を合わせ、関東平野を貫き、銚子市で太平洋に注ぐ。下流域には霞ヶ浦、北浦^{きたうら}、印旛沼^{いんぼねま}など湖沼地帯をつくる。
7. 石狩川：北海道の中央部の石狩岳に源を発し、石狩平野を流れ石狩湾にそそぐ北海道第一の川。典型的な自由蛇行を示している。
8. 日本海溝：太平洋北西部、千島カムチャツカ海溝と伊豆小笠原海溝の間にある東北日本の沖合の海溝。最深部は8,412メートル。
9. ユーラシアプレート：ヨーロッパとアジアの総称。欧亜大陸、東は北太平洋、南はインド洋、西は太平洋に接する大陸の固体地球の表層を覆う厚さ約100キロの硬い層。
10. プレートテクトニクス（構造地質学）：海嶺と海溝^{ちかく}の間の地殻を一枚の板（プレート）を考え、地殻の構造を板を動きとしてとらえようとする、地球の地体構造に関する仮説。